

「開発への市場経済的アプローチ - 森林 NGO 活動からの教訓 - 」

マイケル・ジェンキンス、フォレスト・トレンドズ 代表

1 . はじめに

元来、森林のもたらす価値といえ、専ら木材としての利用に関心が限られてきました。しかし、森林はそれ以外にも、炭素吸収、水源保全、生物多様性の維持などのさまざまなサービスを提供しています。これらのサービスに最近関心が高まりつつあり、フォレスト・トレンドズは、その経済・市場価値を開発することが森林保全に有益な貢献をすると考えています。また、森林の保全を通じて、森林地帯で暮らす人々の生活の安定・向上を図ることにも取り組んでいます (Forest Community Development)。今回のプレゼンテーションでは、我々が実用化・普及に取り組んでいる開発と環境保全を両立する市場経済的アプローチの枠組みを紹介させていただきます。

森林保全をはじめ環境問題に取り組むにあたっては、日本の協力が不可欠です。日本は大量の木材を輸入し、環境破壊に間接的に関与している半面、その高度な技術で環境保全に貢献できるという一面を持っています。フォレスト・トレンドズは、日本との協力を視野に入れながら活動してきました。昨年 11 月に東京の国連大学で開いた国際会議 (KATOOMBA V。詳しくは <http://www.forest-trends.org/whoweare/meetings.htm - tokyo2002> をご覧ください) では、日本の政府、企業、NGO、大学関係者と直接話し合う機会を得ました。民・官を問わず、日本の今後の森林保全・環境問題への取り組みに大きな期待を寄せています。

2 . プレゼンテーションの大まかな流れ

(1) フォレスト・トレンドズの紹介

(2) 森林の経済価値

- (イ) エコシステム・サービス (炭素吸収、水源保全、生物多様性の維持)
- (ロ) 京都議定書と排出権取引
- (ハ) 森林・生態系保全がもたらす水質・水源保全への役割

(3) 日本の役割

日本とのパートナーシップ (政府、民間両方)

3. フォレスト・トレンドズ (Forest Trends) とは

1999年に環境保全団体、林産物企業、研究者グループ、世界銀行、民間投資機関のリーダーによって設立された非営利団体です(本部ワシントンDC)。森林の生み出す価値として、木材としての利用を超えた価値 - 炭素吸収、水源保全、生態系の維持など - に着目しています。森林の多様な価値を高めることを通じ、市場経済と森林保全の両立を図るアプローチの実用化・普及に取り組んでいます。また、森林の保全を通じて、森林地帯で暮らす人々の生活の安定・向上を図ることも取り組んでいます。

ホームページ : <http://www.foresttrends.org/>